

1. 調査報告概要表

作成日 2009年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1591200017
法人名	株式会社ほっとしばたケアセンター
事業所名	ほっとむらかみグループホーム
所在地 (電話番号)	新潟県 村上市 四日市 802-1 (電話) 0254-50-1381
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年3月6日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	約15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.7歳	最低	80歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連村上病院・おたべ医院・中野歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北西に鷹鳥山を望む自然豊かな立地にある日本庭園が美しい落ち着いた和風建築のグループホームです。
 利用者に味付けやコツを教えもらいながら職員と共に行う食事の準備や、手作りのケーキでの誕生日のお祝い、ボランティアへの積極的な働きかけなど、家庭的な温かさと活気を感じることができます。
 運営に関しても、管理者の謙虚で誠実な姿勢が職員にも伝わり、1つひとつの業務に真摯な態度で取組まれている様子が印象的です。前回の評価結果をもとにだいた改善がなされましたが、さらなる向上に期待したいと思います。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果で課題となった『理念の浸透』・『重度化した際の対応』・『日々のその人らしい暮らし』などは改善計画シートを使用し、期間を決め改善がなされていました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前年の課題に対しては『改善計画シート』を使用し、改善を行いました。今回の自己評価も職員全員が取り組み、外部評価の意義は理解しています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	回数を重ねてきたことで、気楽に意見を言ってもらえる関係がつけられてきました。地域住民が参加できる行事や、防災に関する地域との取組みが運営推進会議からの要望により運営に反映されました。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	契約時の苦情相談窓口の説明や、運営推進会議での家族からの意見収集をしています。また、開設1周年記念時にご家族の懇親会を設け、より率直な意見をいただきたいと考えています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地区の活動(ゴミ当番)や年中行事(地域の運動会・灯籠祭り)には出来る範囲で参加させてもらっています。秋には、地区の方を招待しボランティアさんの歌を聞いていただく事ができました。もう少し老人会にグループホームを理解していただくような取り組みを検討し、実施されることを期待します。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前に全職員が考えを持ち寄り、家族のように支え、寄り添っていききたいという思いで事業所独自の理念が作りあげられました。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間など、見やすい所に掲示するとともに、月1回の会議においてモニタリングを実施することで理念を具体化させる取り組みも進められています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1回理念を載せた広報を作成し、ご家族及び地域の居宅に配布するとともに、地区の回覧版に理念を載せて施設の取り組みをお伝えしました。また玄関にも掲示してご家族や来客の方の目にとまりやすいようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の活動(ゴミ当番)や年中行事(地域の運動会・灯笼祭り)には出来る範囲で参加させてもらっています。秋には、地区の方を招待しボランティアさんの歌を聞いていただく事ができました。		もう少し老人会にグループホームを理解していただくような取り組みを検討し、実施されることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の課題に対しては『改善計画シート』を使用し、改善を行いました。今回の自己評価も職員全員が取り組み、外部評価の意義は理解しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数を重ねてきたことで、気楽に意見を言ってもらえる関係がつけられてきました。地域住民が参加できる行事や、防災に関する地域との取組みが運営推進会議からの要望により運営に反映されました。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保健係と利用者の状況に応じて連絡・相談が行える関係ができています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護研究研修センターから出されている事例をもとに検討を実施し、虐待についての理解を深めるようにしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所されたときなどは利用者などの暮らしぶりや健康状態は伝えておりますが、個々に応じた定期的な報告は行われていません。		今後は定期的に利用者個々に応じて定期的に暮らしぶりや健康状態についての文書を作成し、定期的にお伝えすることを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の苦情相談窓口の説明や、運営推進会議での家族からの意見収集をしています。また、開設1周年記念時にご家族の懇親会を設け、より率直な意見をいただきたいと考えています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の管理者・ユニットリーダーとの個別面談、月1回のミーティング、日常のコミュニケーションを通じて、職員の意見や提案を運営に反映させる取組みがされています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交替は最小限に抑え、ご利用者様と職員、ご家族と職員の間にも馴染みの関係と信頼関係が築けるように努力をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	基本的なマニュアルは整備されており、職員にも使いやすいようにポイントには色を変えたり、線を引いたりしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、参加者からの伝達研修による共有、3ヶ月に1回の事例研修が行われ、人材育成の仕組みが機能しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の2ヶ所のグループホームとは毎月管理者会議・リーダー会議で情報交換をし、村上・岩船地域の8ヶ所のグループホームと2ヶ月に1回管理者同士が集まり情報交換をしており、職員交流会も年2回実施しサービスの向上に活かしています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的にあるいは必要に応じて個別の面談を行い、業務上の悩みや職場に対する思いを聴き取り、職員のストレス軽減を図っています。またその要望や意見を働きやすい職場作りに活かしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や面談、お試し利用などを通じ、事業所の理解と人間関係の構築を図りながら利用開始が進められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯を共に行う、添い寝をするなど、生活を共にし、料理や裁縫などは「教えてください」という姿勢で利用者と接することが実践されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居されるときにご家族の協力が不可欠であることをお願いし、都度相談させていただいています。また、思うように事業所へ来られない家族に対しては、事業所側から出向くなど、家族の精神的なケアにも配慮がされています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時など1対1でリラックスして話せる場を大切に、会話の中から訴えたいことを見逃さないよう注意し、得た情報はケース記録やモニタリングにて共有がされています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、センター方式のシートを家族に記入してもらい把握に努められています。また、収集した情報を話題に取り入れることや、図書館から本を借りてくするなど、可能な範囲で活かせるよう努力されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリングには全職員が出席し、ご家族の意見を反映させてケアプランが作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて定期的に見直しを行うほか、全職員出席の月1回のモニタリングにより意見が出され、状況に応じたケアプランの見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時間的な縛りがいないことが事業所の特徴と捉え、ニーズや状況変化に臨機応変な対応を取ることで、本人主体の要望に応じた支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を基本として、医師への相談・情報共有が行われています。受診の状況は医療連携表を使用し分かり易いように工夫されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	村上市もグループホームの看取りを勧めておりませんので、ホームではその意向をもとに基本的には中間施設として重度化した際の対応は行わない方向で検討しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いに関しては、プライバシーポリシー・個人情報の利用目的に沿った対応がされています。また、声かけや入浴の同性介助などの配慮も行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を見直し入居者様の希望に添った支援が出来るように努力しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、可能な範囲で食事の準備や味付けを職員と一緒にしています。また、献立に関しても、自由献立を設け、利用者の希望を反映させる工夫がされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表による排泄パターンを把握、さりげない声かけでの誘導を行うことで、リハビリパンツの使用を減らす試みがされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からになっていますが、一律の対応ではなく、利用者の好きな時間に入れるよう支援されています。また、入浴を拒む人に対しては、タイミングや声かけの方法などを職員間で共有し、無理強いせずに誘導されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴をもとに、意欲が湧くことが見つられるように施設で皿拭き、台拭き、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらっています。また希望に応じて気分転換の外出や買い物に出かけています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	紅葉見学やぶどう狩りなどの行事としての外出、買い物や外食などの日常的な外出支援の他、自宅へのドライブや敷地内の庭園での日向ぼっこなど、屋外に出かけられるよう支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際、ケース検討が行われ、身体拘束をしないケアが徹底されています。またマニュアルに関しても前年の評価結果をもとに改善がされていました。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、ホールにいる職員の目が行き届くようになっており、見守りの徹底と区長や民生員への協力依頼により、鍵をかけないケアの実践がされています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの身体、精神状態にあわせ、事故防止の対応に努めています。また、ヒヤリハット・事故報告書も改善策を立て、全員に回覧するようにしています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の救命救急講習を全職員が受講し、防災マニュアルについても見直しが行われました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、地区の防災講座への参加、運営推進会議を通じた地区への協力依頼が行われています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はまめに摂ってもらうように声をかけている。法人内の栄養士にカロリー計算をしてもらい、献立作成の参考にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸内に居ながらにして四季を感じられるように配慮し、花や行事に関連する装飾が程よくされています。前年の評価結果をもとに湿度に関してもチェックを徹底し、適度な状態が保たれています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室から敷地内にある日本庭園を望むことができます。また、室内は利用者が使い慣れた物を持ってきてもらい、「その人らしい空間作り」の工夫がされています。		